

北朝鮮の政治犯収容所に異変

北朝鮮の独裁体制は恐怖政治で支配されているが、粛清の受け皿になってきたのが政治犯強制収容所だ。自身も収容所経験者で、現在、韓国で北朝鮮人権活動家としても活動するジャーナリスト、姜哲煥氏が強制収容所に関する異変を確認した。国連人権委員会などが問題視してきた「耀徳収容所」はほぼ解体されたのに対し、核実験場に隣接する「化成収容所」が約10万人規模に巨大化した。姜氏は「化成収容所から90年代以降、4万人以上が行方不明との情報があり、核実験関連作業に動員された可能性が高い」と述べている。

■解体されたのは悪名高い「耀徳収容所」

北朝鮮の政治犯収容所の存在は、在日朝鮮人の帰還事業（1959年－84年）で家族が北朝鮮に渡った在日の人々が「帰国者の多くが収容所に送られている」と証言し、90年代初頭から明るみに出た。

現在、北朝鮮内に最低でも8カ所に確認されており12万人から20万人が収監とみられている。「耀徳収容所」は国際的に最も知られる。他の収容所が生きて2度と外に出られない「完全統制区域」なのに比べ、耀徳には事情によって釈放される「革命家区域」があり、元収監者から情報が外部に出たためだ。姜氏も9歳から10年間、耀徳に収容され84年に釈放された。

国連人権委は2014年にまとめた「北朝鮮人権報告書」で政治犯強制収容所を「人道に対する犯罪」に相当と指摘した。北朝鮮はこれを受け「耀徳収容所」を農場に見せかけるなどの偽装を始めた。

姜氏によると、金正日の死去で世襲した金正恩総書記は当初、北朝鮮の収容所の必要性が理解できなかった。金氏は「耀徳はいらない」と解体を命じたという。しかし2013年末、叔父の張成沢を国家転覆陰謀罪で処刑、張成沢一派の総勢5000人から1万人に及ぶ「政治犯」の処分に直面した。このため収容所解体が止まったという。

姜氏は点在する収容所を衛星情報（グーグル・アース）などで確認作業をしてきたが、「耀徳収容所」の解体は2021年から加速し、解体作業がほぼ完了したという。「目的は世界から注視されている耀徳収容所の隠ぺいだ。しかし、収容されていた収監者が釈放されたわけではない」（姜氏）

日本で有力な在日朝鮮人だった祖父が帰還事業で北朝鮮に帰国、その後、政治犯として「耀徳収容所」送りとなった姜氏は9歳で祖母ら一族全員が耀徳に収監された。「耀徳収容所」には在日朝鮮人が多く、2014年代は約5000人が住む在日村が耀徳にあったという。

■拡張された核施設隣接の「化成収容所」 収監者が消えた…

一方、2014年以降、急速に拡張されている強制収容所が北朝鮮北東部、豊溪里の核実験場に隣接する「化成収容所」だ。ここは一生出られない「完全統制区域」で、これまで韓

国に脱出した者は一人もいない。

政治犯収容所の警備隊員として80年代から90年代まで8年間で4つの収容所に勤務し「政治犯を虐待する側」の立場だった安明哲氏（1994年脱北）は、「1991年頃から、核実験場の建設には化成収容所だけでなく複数の収容所の囚人収監者が集められたが、戻った者はおらず行方不明だ」と証言する。

安氏によると、工事は「万塔山工事」と呼ばれた。万塔山とは豊溪里近くの2000級の山だが、当時は何の工事か不明だったが、その後、核実験場建設だったことが分かったという。豊溪里では2006年以降、6回の地下核実験を実施された。

姜氏によると、化成では2014年以降5つの村が造成されている。宿舎や村の規模から収監人数は約8万人から10万人規模と推測できるという。化成の造成が耀徳の解体と並行していることから、「耀徳の収監者が化成に移送されている可能性が高い」（姜氏）

北朝鮮の政治犯収容所は山間部の谷に造成されることが多い。周辺が峻嶒な岩山で平地から隔絶した盆地という地形は耀徳、化成に共通している。収監者の移送は米偵察衛星を警戒、夜間に行われることが多い。北朝鮮核実験は2006年以降、2013年、2016年、（2回）、17年と2013年以降に集中している。

姜氏は拡張された化成収容所の収監者が核実験関連作業の「使い捨て」になってきたとみて、情報収集を続けてきた。

「北朝鮮は核実験の秘密を守るため死んでも構わない収容所の囚人を犠牲にしてきたと考えられる。90年代以降、化成収容所から4万7000人の消息が不明になったという情報がある。化成収容所は国際的には知られておらず、核実験に囚人が動員されている疑いを含め、国際社会が追及する必要がある」（姜氏）としている。

■第7回核実験が終われば…

姜氏は日本で北朝鮮の政治犯収容所問題に取り組むNGO「NO FENCE」（北朝鮮、強制収容所をなくすアクションの会・小川晴久代表）のウェブ会議で耀徳収容所、化成収容所の異変について報告した。

同会の宋允復副会長は、「収容所からの脱出者証言から、北朝鮮は有事体制になれば最初に政治犯収容所の収監者の全員殺処分を決めていることが分かっている。人道犯罪の隠ぺいと秘密保持が目的だ。また次の核実験が小型戦術核のためで最後の実験になる可能性もある。いずれにしても収監者たちが近い将来、殺害される恐れがある」と述べている。

メモ 在日朝鮮人帰国事業 北朝鮮が「地上は楽園」と宣伝し、在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）が帰還船で在日韓国・朝鮮人約10万人を永住帰国させた。在日の財産と労働力が目的だった。親族が人質になった在日の人々は金品を送り続けた。

姜哲煥 北朝鮮・平壤出身。耀徳収容所から釈放されたあと、1992年に韓国に亡命。脱北や政治犯強制収容所についての著書や講演活動で知られる。韓国紙「朝鮮日報」の記者を

経て、現在「北韓戦略センター」代表。

産経新聞オピニオン面「朝鮮半島ウォッチ」(2022年11月16日)